

カゴヤ・ジャパンがメールセキュリティアプライアンスに「FortiMail」を採用

フォーティネットは、データセンター、レンタルサーバー事業を展開するカゴヤ・ジャパン（所在地：京都市中京区）が、同社のセキュアメールアプライアンス「FortiMail-3000C」を導入したことを発表した。カゴヤ・ジャパンは高度化する脅威に対抗するため、フォーティネットの実績あるメールアプライアンスでセキュリティをさらに強化し、TCOの削減を進めていく。

カゴヤ・ジャパンは、同社のレンタルサーバサービスブランド「KAGOYA Internet Routing」で提供されるメールサービスのオプションメニューである「迷惑メール対策」にFortiMailのウイルス対策およびスパム対策機能を採用し、最新のフィルタリング技術で多段階的にスキャンするフォーティネットの高精度なアンチスパム・アンチウイルスを採用することでメールセキュリティを強化した。また同社は、FortiMailのゲートウェイモードを利用して、メールのルーティングを変更し、3つのVLANを1つのVLANに統合することが可能になった。シンプルなネットワーク構成を採用することで、将来のデータセンター拡張にも容易に対応できるほか、機器台数の統合によって維持・管理費を低減することができる。また、フォーティネットのユーザー数無制限ライセンスで年間ライセンス料を抑えてTCOを削減することが可能だ。

フォーティネットジャパンの社長執行役員である久保田則夫氏は「標的型攻撃などEメールを介した攻撃が巧妙化する現在、万全なメールセキュリティは企業にとってますます重要になっています。高い性能と豊富な機能、そして低いTCOを全て実現するFortiMailは、カゴヤ・ジャパン様を信頼する全てのお客様へ充実したセキュリティ機能をご提供し、カゴヤ・ジャパン様には導入

および運用コスト面での優位性をご享受いただけていると思っております」と語っている。

FortiMailは、FortiGateのメールセキュリティ機能をさらに拡張し、高機能化したセキュアメールアプライアンスだ。高機能なアンチスパム、アンチウイルス、アンチフィッシング、アンチマルウェア、DLP（情報漏洩防止）、暗号化、アーカイブ、アンチブラックリストリングなどの機能を一つのアプライアンスで提供する包括的なソリューションで、外部からの攻撃および内部からの脅威に対抗している。

今回の導入にあたり、カゴヤ・ジャパンが活用しているFortiMailの主な機能は次のとおりだ。

①**高精度のアンチスパム・アンチウイルス**：FortiMailは、FortiGuard CenterによるグローバルIPレピュテーションおよびURL／メールアドレスベースチェック、送信者レピュテーション、ヒューリスティック解析など最新のフィルタリング技術を採用している。これらの技術を複合的に使って、多段階的にスキャンすることで、高精度のアンチスパム・アンチウイルスフィルタを実現することができる。

②**FortiMailのゲートウェイモード**：ゲートウェイモードのFortiMailは、既存のEメールゲートウェイに対してインバウンドおよびアウトバウンドのプロキシメールトランスファーエージェント（MTA）サービスを提供。シンプルなDNS MXレコード変更機能によってEメールがFortiMailにリダイレクトされ、アンチスパム／アンチウイルススキャンを実行してから、Eメールを宛先のメールサーバへと中継する。

フォーティネットジャパン TEL：03-6434-8572